

# 海の向こうから

みなさん、こんにちは。いかがお過ごしですか？2014年度は、夏に広島市で土砂災害が発生し、たくさんの被害が出るという悲痛な出来事がありました。OB会からもたくさんのボランティアの方が活躍しました。同時に、今年度もたくさんの隊員が世界各国へ。そんな現地隊員の方々からもお便りをいただきました。今年の会報は、広島と海外で現在活躍されている方々の活動を中心に報告します！

## 現役隊員レポート

派遣中の3名の隊員からお便りをいただきました。お便りをくださったみなさま、本当にありがとうございました！



### 大野 千里さん

(H25-4 タイ 日本語教育)



#### 【任国の様子】

タイはもはや中進国で、首都バンコクなど東京と変わらないと言っても過言ではありません。広島より都会かも・・・(笑) 多くの日本人が滞在しており、日本食も豊富です。しかし、それは首都だけの話。日本とタイではなく、首都と任地にカルチャーショックを受けました。シャワーのノズルヘッドを通して、小さなおたまじゃくしみたいな魚が出てきたとき、水質を悟りました。

#### 【現在の隊員活動の様子】

中高一貫校で、中学2年生から高校3年生の生徒約150名に日本語を教えています。聴解・会話と読解・作文の授業を担当します。タイ人の先生とチーム・ティーチングで教えていますが、授業準備の時間が取れなかったり、お互いの考えていることがうまく噛み合わなかったりと、試行錯誤しています。それでも、生徒が覚えた日本語で話しかけてくれたり、ちょっとしたゲームでも喜んで参加してくれるので、とても励みになります。



## 三好 佑生さん

(H24-4 ペルー 環境教育)



(水の汚染に関する授業風景)

みなさんはじめまして。平成24年度4次隊でペルー共和国に環境教育隊員として派遣されております三好佑生と申します。今回は1年半が経った私の任地や活動に関して執筆させていただきたいと思います。

### 【任国の様子】

私は、リマから南に300km程行ったイカという地方都市の市役所の保健環境部にて活動を行っています。ペルーといえばマチュピチュ、アンデス山脈、アルパカを想像される方が多いと思いますが、イカは山岳部ではなく、海岸部に位置するため上の三つはありません。「永遠の太陽の街」といわれるイカは雨の降らない砂漠の街です。

### 【現在の隊員活動の様子】

ここで、企業や教育機関等市民に対して啓発を行うために2代目隊員として派遣されております。活動としては、市内市場の出店者に対する啓発活動や教育機関での出張環境教育授業、季節に応じた環境イベントの実施等です。その中の活動を少しご紹介します。

現在、イカのパイロット校に対して年間環境啓発を行っています。毎月テーマを変えて授業やアクティビティを行うというものです。この活動は学校の児童を啓発するとともに、先生たちの環境教育の手法を増やし、同僚たちの環境啓発活動への意欲をあげるという目的のものです。毎月、水やごみ、動物などテーマを決めた授業を行い、児童が自分たちの意見を発表する場などを設けています。そして、任期終了直前の2月には配属先内の100人の先生に対して環境教育勉強会を教育委員会とともに行って、私が任地を離れた後も学校で環境教育が行える体制を作ろうと思っています。

また、先日イカ市内のショッピングセンター、ペルー環境省と共同開催にてエコバッグキャンペーンを実施しました。イカでは少し前の日本のように、ビニール袋が大量に買い物の際に使われています。しかし、適正な処理がされないまま、街に放置されて市内の不衛生の原因ともなっています。その問題を少しでも改善したいという思いのもと、環境省よりエコバッグを400個提供いただき、規定額を購入いただいたお客さんにエコバッグを配布いたしました。イベントは好評で、ショッピングセンターが来年CSR活動の一環として、自分たちで同様のイベントを行うことが決まりました。

宣伝で申し訳ございませんが、「JICA ボランティアの世界日記 (<http://world-diary.jica.go.jp/>)」を執筆しております。興味がある方はのぞいてみてください。

環境への意識はなかなかすぐには変わりませんが、この前任者も含めて4年間でJICA ボランティアがまいた種がこの砂漠の街で芽生えることを願って、残り4か月の任期を満喫したいと思います。



(エコバッグキャンペーン)



(濱長 OV の御協力を実現した原爆展)

## 柚木 秀徳さん

(H25-1 エルサルバドル 理数科教師)



### 【任国の様子】

配属先が学校ですので、エルサルバドルの学校について紹介します。エルサルバドルの学校すべてが同じ状況とは限らないと思いますが、公立学校は似通っていると思います。学年が1月から始まり、11月に終わります。11月途中から12月いっぱい年度末休みです。それ以外の長期休暇は、4月に10日ほど、8月に1週間ほどあります。日本の小学校と中学校が一緒になっており、1年生から9年生（日本の中学3年生）までが在学しています。全体で300人くらいの生徒と、20人余りの先生がいます。授業は、国社数理英に加えて、美術、体育、コンピューターの授業が行われています。制服や靴は政府が支給しています。一方、教科書は支給されないため、持っていない生徒がたくさんいます。午前7時半に始まり、午後3時までなのですが、昼食を食べに生徒たちは各家に帰るため、家が遠い生徒たちは午後再登校してきません。よって、午前は生徒がたくさんいますが、午後は閑散としています。

学校で午前9時におやつが出されます。また、学校の売店でお菓子を買って食べている生徒がたくさんいます。毎週月曜日には、全校朝会があり、みんなで国家を歌います。その際には、右手を胸に当て、敬意を表します。イベントがたくさんあり、母の日にはお母さんたちを学校に招待したり、クラスマッチで女子がソフトボール・男子がサッカーを行ったり、 Dengue 熱を防ぐ目的での掃除が行われたりします。その都度、授業がカットされます。また、先生が休んだ場合には、大学の休講と同じ状態になり、生徒たちは外でおしゃべりしたり、遊んだりして時間をつぶしています。

この前、卒業式がありました。卒業式では卒業証書が渡されますが、日本の卒業式のように厳かに行うのではなく、音楽が流れ、みんなの歓声がある中での卒業式でした。また、卒業式に先立って、教会でミサが行われました。

### 【現在の隊員活動の様子】

配属先の学校には、理科室があります。多くの学校では理科室がないとのことなので、恵まれています。ただ、理科の先生たちはあまり理科室を使わず、教室で教科書のための授業になっているため、理科の先生たちに対して実験の指導をし、実験の導入を促していくことが目的となります。右の写真のように、理科室には、顕微鏡を始め多くの器具が揃っています。また、身近な物を使った実験も取り入れています。



少しずつですが、理科の先生たちも理科室を使う時間が増えてきたと思います。残り任期も少なくなってきましたが、今後は、実験の方法をマニュアル化し、それを見れば理科の先生方が実験を行えるようにすることを目標に頑張っていきます。同僚の先生方は、スペイン語が得意な私に対しても優しく接してくれますので、その恩返しになるように残りの任期を全うしたいです。



# 広島土砂災害ボランティア活動報告

満島 裕直さん

日系社会シニア・ボランティア、シニア海外ボランティア  
ポリビア（企画運営）・パラグアイ（編集）・エクアドル（製菓製パン）



8月20日に広島市で発生した土砂災害は、74名もの犠牲者を出す大規模なものであり、TV・新聞などから伝えられる災害の状況に、東日本大震災の時と同じ衝撃を受けました。すぐに被災地に駆けつけましたが、行った先の「阿武の里」（安佐南区八木3丁目）では、土石流による被害は甚大で、道路も歩けない状態でした。何かしなければと、強い衝動にかられました。

今回の私のボランティア活動の始まりは、友人を通して被災地の老人会会長から「1人暮らしの老人を助けて欲しい」との要望を受け、安佐南区災害ボランティアセンターの八木サテライトに伝え、ボランティアを派遣していただいたことでした。その後、八木サテライトの運営に加わり、また、被災者のニーズに沿ったボランティア派遣のコーディネート業務に携わることとなりました。

今回の災害では、9月末までに約47,000人のボランティアの参加がありました。ボランティアの活動に対して、被災者から感謝の声がたくさん寄せられています。「家の土砂を出して頂き、畳も新しくなり、気持ちが明るくなった。あきらめていた箏の演奏会にも出演する気力が湧いて来て練習を開始した。」など、希望を失いかけていた人が、新たな気持ちで歩み出している姿に、私たちボランティアも力をもらっています。

また、この大勢のボランティア活動は、動きの鈍かった行政にも大きな刺激を与えました。復旧には行政が動くことが必須です。今後の復興に向け、防災対策、被災者の生活再建、地域コミュニティの再建等々、課題は山積していますが、まだまだ実現に向けた見通しは立っていません。

一方、がれきの撤去などが大方済んだことから、9月末で八木サテライトが閉鎖されました。しかし、被災者の多くは家族や友人を亡くしたことによる孤立感・喪失感、雨が降ると心配で眠れないなど、PTSD症状に悩まされています。そんな今、私たちボランティアには「他人事からの脱却」が問われ、「被災者の心に寄り添うボランティア」が求められており、10月から新たに「広島土砂災害コミュニティサポート」というボランティア団体を立ち上げ、約20人の仲間とともに被災者支援活動を継続しています。「被災者一人一人の困難に、我が事として寄り添うとは何か？」を考え悩みながら、一日も早い復興を願って活動しています。



（阿武の里町内会 8.25）



（災害ボランティアセンター・八木サテライト 9.30）



# HOCAプロジェクト報告

クズザンポーラ！（ゾンカ語、「こんにちは」）  
このたびは王立ブータン農業大学での活動に対し  
支援をいただきありがとうございます。この場を  
お借りして、プロジェクトの中間報告をさせてい  
ただきます。

報告者：前田奈緒里  
派遣国：ブータン  
職種：食品加工  
隊次：平成25年度1次隊  
配属先：王立ブータン農業大学  
（ブナカ県、ロベサ）



## プロジェクトの流れ



活動当初、十分な機材のない中、あるものを持ち寄って食品加工実習を行っていました。



ブータンの農産物で作る加工品を広く知ってもらうため、実習加工品の販売を計画しました。



HOCAプロジェクトの支援をいただき、市場販売に耐えうる実習品の加工に必要な機材を購入しました。

プロジェクトを通して、ナイフやボウル、鍋などを購入させていただいた結果、2014年秋学期には、品質、量ともに市場に供給できる実習加工品を製造することができました。

## 中間報告



農業省の協力で、首都にある農協のアンテナショップにジャム、ピクルスを出品しました。



実習をした学生と共にショップを訪問し、マーケティングを学びました。



学内での加工品展示会を通して食品加工実験棟新設への支援を得ることができました。

HOCA プロジェクトの支援により、ただ加工品を作って売るだけでなく、実習を通してバラエティ豊かな学びの場を提供したり、多くの人に食品加工の可能性に気づいていただくなど、思いもよらない効果が生まれました。今後は、乳加工品など、加工食品の幅を広げて製造し、販売していきたいと考えています。なお、購入した機材は現在実験助手の職員に管理を依頼しており、今後はログブックの活用などで保管状況を整える予定です。このたびは、どうもありがとうございました。ナメサメ カディンチェーラ！

# 派遣前アンケート

派遣前訓練を無事に終えられた隊員の方に聞きました！  
平成25年度3次隊から平成26年2次隊までの方々です  
(回答のあった人のみを掲載しています)。

## 【アンケートの内容】

- ① 名前
- ② 隊次／職種
- ③ 派遣国
- ④ 応募したきっかけ
- ⑤ 訓練所での辛かった思い出
- ⑥ 訓練所での楽しかった思い出
- ⑦ 活動中に挑戦したいこと
- ⑧ 出国前の心境
- ⑨ 意気込みを一言！



- ① 樽澤 英治
- ② 25-3/下水道
- ③ グアテマラ
- ⑦ 環境分析機関の成立
- ⑧ 平常心。
- ⑨ 安全第一です。



- ① 金河 大
- ② 25-3/理科教育
- ③ エチオピア
- ④ ふらっと参加した説明会で面白そうだったので。
- ⑤ 足首をねんざして松葉杖を使わなければならなくなったこと。スケジュールがきつくて語学や講座が自分の中で消化不良になることがあったこと。
- ⑥ 訓練生活、毎日が楽しかったです。
- ⑦ 生徒に理科の楽しさをできるだけ伝えること。
- ⑧ 楽しみです。
- ⑨ エチオピアを満喫します。



- ① 北村 珠絵
- ② 25-3/美容師
- ③ ヨルダン
- ④ 前から行ってみたいと思っていた。
- ⑤ 課業ぜんぶ。
- ⑥ 今となっては全部かな？
- ⑧ ドキドキです。
- ⑨ 何が出来るかわかりませんが、やれる事をみつけます。



- ① 井上 裕子
- ② 25-3/看護師
- ③ タンザニア
- ④ 人の縁、出逢いとつながり。
- ⑤ 語学！語学！！語学～！！
- ⑥ 生活班での生活。一日中一緒にワイワイ。
- ⑦ アフリカンダンス、ジャンベなど。山登り。日本の文化を伝える。
- ⑧ 不安30%と期待70%
- ⑨ アフリカ人になりきる勢いで頑張るゾ！！



- ① 大野 千里
- ② 25-4/日本語教育
- ③ タイ
- ④ 中学生の時に知って以来、いつか必ず協力隊に参加したいと思っていた。その「いつか」が今だと思ったので。
- ⑤ タイ語の勉強。全くゼロからのスタートでした。
- ⑥ 広報活動の一環としてのラジオ作り、ラジオ委員になっていい経験ができた！
- ⑦ タイのダンス！！
- ⑧ 自分に何が出来るか、どのくらい成果を挙げられるか分からないけれど、思いっきり楽しもう！とわくわくしています。
- ⑨ 殻を破ってきます！！



- ① 菅 康文
- ② 25-4/体育
- ③ ブータン
- ④ 自分の力を生かしていける。自分の力を伸ばしていける。
- ⑤ 特になし。
- ⑥ 若い方との交流・学習できた。
- ⑦ 現地体育教育の質的向上。ゾンカ（現地語）の習得。
- ⑧ 日の丸を背負って良い仕事をして来ます！
- ⑨ ウィンウィンの関係を作りたいと思っています。必ずお役に立てる貢献をして参ります。



- ① 小山 希
- ② 25-4/公衆衛生
- ③ ルワンダ
- ④ 中学生からの夢で、途上国で働きたいと思っていた。看護師経験を積み、家族・彼氏の応援もあり、夢だけでは終わらせたくなく応募しました。
- ⑤ 英語の勉強……。夜早く寝れない。朝早かったので、寝不足だったこと。
- ⑥ 週末は友達と遊びに行ったり、バドミントンをしたりしたコト。
- ⑦ 英語の勉強・現地語マスター！！
- ⑧ 不安と楽しみでいっぱい！！
- ⑨ 2年間、ルワンダに尽くしてきます！



- ① 大塚 美弥
- ② 25-4/コミュニティー開発
- ③ バングラデシュ
- ④ 元協力隊員の主人に影響を受け、現地での話を聞いているうちに、私にも何か出来る事があるかもしれないと思った。
- ⑤ 時間に拘束された生活(慣れましたけど・・・)、雪かき、寒さ。
- ⑥ 沢山の人と色々な話が出来た。スペイン語。夜の談話室。ご飯がおいしかった。
- ⑦ 村の人気者になる。
- ⑧ 楽しみです。これからどんな世界が待っているのかと思うとワクワクします。
- ⑨ 後悔のない活動をして、充実した2年間にしたいと思っています。2年後、皆様にお会いする際は、今よりももっと成長した姿を見せることができるよう頑張ります。



- ① 豊嶋 慶悟
- ② 25-4/自動車整備
- ③ ガーナ
- ④ 帰国隊員の経験談（会社の先輩）
- ⑤ 語学の宿題
- ⑥ 集団生活
- ⑦ 自主主催のイベント的なことをしたい。
- ⑧ 楽しみと少しの不安。
- ⑨ マイペースでやりたい。





- ① 河村 亮
- ② 25-4/バレーボール
- ③ モンゴル
- ④ 大学1年生のときにラオスへ行き、帰国後、OVの後押しにより参加を決意。
- ⑤ 語学自習の時間を個人的に多めに設けていたため、寝不足で体調不良になった。
- ⑥ 同じ志を持った仲間たちと生活をしたこと。食事の時間。
- ⑦ 「体育」という概念の土台作り、意識の向上。
- ⑧ まず第一に任地の人々とコミュニケーションをとって、ニーズを知る。
- ⑨ 日本の常識に捉われず、物事に対し柔軟な思考を持って活動に努めたい。





- ① 山崎 尚子
- ② 26-1/小学校教諭
- ③ モロッコ
- ④ 自分の見聞を広めたいと思ったことと、人生の選択肢を増やすためには、教育が大切だと日本で先生をしていて感じたので、更に選択肢の限られている途上国で活動したいと思った。
- ⑤ 慣れるまでの集団生活。
- ⑥ 語学（フランス語）が少しずつ身についたこと。最後に安達太良山に登ったこと！！
- ⑦ 子ども達と日本の歌&現地の歌を歌うこと。日本料理をみんなで作りたい。
- ⑧ 実感がわかないのと、焦りが出始めたのとで、不安がいっぱい！でも知れば知るほど魅力的な国なのでワクワクもたーくさん！
- ⑨ 胸を張って帰国できるよう、精一杯取り組んでいます！！自分に負けない！！




- 
- ① 舟木 耕太
  - ② 26-1 / 数学教育
  - ③ モザンビーク
  - ④ 小さい頃から学校の先生との出会いなどありましたが、一番のきっかけは、大学2年生の時に参加したフィリピンへのワークキャンプです。
  - ⑤ 終わってみれば辛かったとは特にありません。と言いたいです、あえて言うなら時間が少なかったことです。
  - ⑥ 人との出会い、福島の大自然、充実した環境で生活することができ、夢のような日々でした。朝のランニングが一番好きでした。
  - ⑦ 数学の授業だけでなく、集団作りのワークショップや現地の人との集まりに積極的に入っていけるようにしたいです。
  - ⑧ いよいよかと思うとワクワクしています。出国前にたくさんの人に会う中で、気持ちの振幅が大きくなっています。
  - ⑨ こんなチャンスがもたらされたことに感謝して、活動期間を一生懸命かけ抜けていきたいと思えます。

- 
- ① 坂村 優
  - ② 26-1 / コミュニティ開発
  - ③ マラウイ
  - ④ 大学院でタイの一村一品運動について研究していましたが、研究に留まり、何も還元できなかったのが心残りだったため応募しました。
  - ⑤ 当時は特に辛いとは思っていませんでしたが、時間の厳しさです。毎朝6:30~ランニング・ラジオ体操は朝弱い私にとってはしんどかったです。また、授業準備時間を捻出するのにも苦労しました。
  - ⑥ 集団生活そのものです。毎日顔を合わせると家族になったようで、本当に安心できる心地よい場所でした。
  - ⑦ マラウイのうまいものを発掘することです！
  - ⑧ 2年も日本に戻らないかと思うと少し緊張してきましたが、楽しみの方が大きいです！
  - ⑨ まずは友だち作り、ご近所付き合いを大切に。最終的には、新商品を開発して売上向上に貢献したいです。

- 
- ① 藤原 周平
  - ② 26-1 / PCインストラクター
  - ③ ナミビア
  - ④ 将来的に国際貢献の仕事がしたいと大学生の時から思っていた。社会人経験を3年積んだので、途上国で2年活動して国際協力に携わりたいと思った。
  - ⑤ 決められたスケジュールで決められたことをする。自由があまりなかったこと。
  - ⑥ 班（生活グループ）での活動や語学学習、講座など全て。
  - ⑦ 各学校へPCを修理してまわること。平和教育の実践に挑戦したい。
  - ⑧ 早く任地で活動したい。非常に楽しみである。
  - ⑨ 楽しむことを大切にして、精一杯頑張ります！

- 
- ① 新庄 芳菜恵
  - ② 26-1 / 障害児・者支援
  - ③ ヨルダン
  - ④ 世界のことを自分の目で確認したいという思い。
  - ⑤ 語学に息づまったこと。生活リズムに慣れ、自分なりに時間を作れるようになるまで。
  - ⑥ 何かしら長けている方が多く、新しい発見やHow toを毎日誰かから教えてもらえたこと。アラビア語がわかるようになったこと。
  - ⑦ 地域の方と障害を持った方が触れあえ、良い理解をし合えるような機会を設ける。
  - ⑧ やっとヨルダンに行ける！！
  - ⑨ 少しでも多くの方が生きること喜びを感じ、笑えるように、出会いを大切にしていきたいです。

- 
- ① 行則 一秀
  - ② 26-1 / 卓球
  - ③ キリバス
  - ④ 「世界を平和にする」なんて事を言って仕事できる事はないかなと思って。
  - ⑤ なし！
  - ⑥ 語学の授業。
  - ⑦ マラソン大会の開催。原爆展の開催。
  - ⑧ 自然体です！
  - ⑨ 卓球で温暖化を止めます。



- ① 杉原 千鶴
- ② 26-1 / 土木
- ③ バヌアツ
- ④ 中村哲さんのお話に感動して。
- ⑤ 特になし。
- ⑥ 友人がで、色々な人に触れる事ができた事。
- ⑦ 広島原爆展。
- ⑧ 早く行きたい！
- ⑨ バヌアツの道路全部直す！！



- ① 梅木 愛子
- ② 26-1 / 小学校教育
- ③ モルディブ
- ④ 協力隊として活動された方のお話を聞いて。
- ⑤ 語学力がなかなかのびなかったこと。
- ⑥ 毎日の生活も語学の授業もすべて楽しかったです。
- ⑦ 運動会をする。
- ⑧ 任地に行きたい。
- ⑨ 目の前のことに真摯に取り組む。



- ① 原田 光一
- ② 26-2 / コンピューター技術
- ③ バングラデシュ
- ④ 海外で仕事がしたく、今まで経験したことがない環境で自分を成長させたかったから。
- ⑤ 言語の練習。今まで見たことがないような文章を覚えるのが大変だった。
- ⑥ 夜外活動や言語クラスでのハーフディトリップなど、仲間と何かやるのが楽しかった。
- ⑦ 現地の言語を完璧にしていきたい。また、英語などの他の言語もマスターしたい。
- ⑧ 少し現地で病気などにならないか不安だが、楽しい気持ちの方が強い。
- ⑨ バングラデシュと日本との友好を深めていきたい。また、バングラデシュの発展に寄与していきたい。



- ① 丸本 裕子
- ② 26-2 / 作業療法士
- ③ タイ
- ④ 東南アジアへの旅行で、貧富の差が大きく、物乞いをしている人を何度も見て、自分はこれに対して何を考えるべきなのか、私は何かできないのかと思ったから。
- ⑤ 中間テスト前に、簡単な単語が全く覚えられなかったこと。
- ⑥ 訓練生活全て。たくさん規則がある忙しい生活はすごく久しぶりで、全てのことを全力で楽しんだ。週末の度に皆と飲みに行くのは最高だった。
- ⑦ タイへ行くので、マッサージや伝統舞踊などもやってみたい。タイの高齢者とたくさんお話をしたい。
- ⑧ 語学もまだまだ未熟だし、自分に何ができるかとても不安ですが、大好きなタイ！南国！ワクワクもいっぱいです。
- ⑨ 日本との違いに圧倒されながらも、元気に笑って活動していきたいです。2年後、タイ語ペラペラになって帰ってきまーす！！



- ① 大平 緑
- ② 26-2 / 青少年活動
- ③ モンゴル
- ④ 中国で日本語教師として働いていた協力隊員の友達の姿を見て、現地で現地の人々と一緒に生活してみなければ分からないことがあると思ったこと。
- ⑤ 集団生活の中で、人と意見の相違があったり、生活リズムが合わず、イライラしたこともありましたが、この経験から得た教訓は必ず途上国で活かせると思いました。
- ⑥ 様々なバックグラウンド・職種の人達と話す機会があった事で、刺激をもらったり、面白い情報が得られたりして、自分自身の人間力を高めることができました。
- ⑦ -30℃の世界で、バナナでクギを打つ！（笑）
- ⑧ 一眼レフカメラを買ったので、日本の風景を沢山撮ってからモンゴルに行きたいと思います。
- ⑨ 私ができる事はほんの少しだと思いますが、草の根の活動を通して、世界が少しでも良くなることに貢献できたらと思っています。



- ① 瀧脇 本章
- ② 26-2 / 電気・電子機器
- ③ スリランカ
- ④ 数年前より定年後の自分の目標として、ボランティアにより貧国に苦しむ国に行き何かしたいと思っていて。
- ⑤ 語学（シンハラ語）の学習。スポーツ大会で肉離れを起こし、皆に迷惑をかけたこと。
- ⑥ 班の仲間と楽しく過ごせたこと。
- ⑦ 絵を10枚完成させ、展示会を開く。
- ⑧ 正直なところ特になく、長期の出張に行くような気持ち。
- ⑨ おそらく行ってみると、出張と同じく「こんなはずではないと思った」というところから始まると思うが、一步一步計画を立て進めていきたい。



# 着任紹介

推進員に新しく着任されました上田さんを紹介します！

## 上田 愛さん

(H21-4 ブルキナファソ・ケニア 村落開発普及員)



みなさん、こんにちは！

2月より、JICA 国際協力推進員として着任いたしました、上田 愛（うへだ あい）と申します。

小さいころから全国各地を転々としていたので、出身は？と聞かれたときにいつも「どこだろう？」と迷っていたのですが、最近ようやく「広島です！」と答えられるくらいになじめてきたかなってうれしく思っています。

そして、広島県の推進員をさせていただくようになって、たくさんの人と出会い、つながることができて、毎日とても楽しく充実しています。友達もできました笑。

みなさん、いつもありがとうございます！

「人生楽しくなきゃつまんない。迷ったらとりあえずやってみる！」ことにしています。みなさんと一緒に広島でおもしろいことできたらいいなって思いますので、これからもどうぞよろしくお願ひいたします。広島市中心部におりますので、お近くにお越しの際は、ぜひ遊びに来てくださいね。



(がんばれカープ！)



(ブルキナファソでの活動)



(ブルキナファソでの活動で作成したポーチ)

### 【編集後記】

昨年に引き続き、会報担当をしています神原和代です。相変わらずのバタバタの準備期間で、寄稿・編集にご協力くださった現役隊員およびOBの方々、お忙しい中、本当にありがとうございました。この会報誌を通じて、OB会の情報や世界各国で活躍中の隊員のみなさまの様子を、わかりやすくお伝えできればと思っています。投稿・ご意見・ご要望など、何かありましたら、いつでもお寄せください。お待ちしております！

### 青年海外協力隊 広島県OB会 連絡先

会 長 皿海 博信 (H15-2 タンザニア 自動車板金)  
事務局長 細川 光宜 (H8-2 パプアニューギニア 木工)  
会報誌担当 神原 和代 (H16-1 ミクロネシア 理数科教師)  
E-mail : hiroshima\_jocv\_obkai@yahoo.co.jp